



国産シルクから生まれた化粧品(I2 アイツ-)

当社は、絹織物の産地、群馬県桐生市にある。国産シルクを使った、自然派化粧品「I2(アイツ-)」を開発した。シルクのもつ、保湿性、紫外線防止効果といった肌に優しい特性を活かす。ソープ、エッセンス、ジェルクリームを販売する。群馬県繊維工業試験場で、国産繭(まゆ)の毛羽(けば)から絹タンパクを抽出する技術を獲得したのが始まり。

業況等の動向について

本業の動向について

染色整理加工業を主業とする。スパンデックス(ポリウレタン弾性繊維。伸縮性に富む)の経編みレース。アウター、インナー向け。中国、韓国からの輸入品と競合している。企画は日本で、製造を海外に委託しているケースが多く、品質面での競争というより、価格ありきの勝負になっている。

参入事業の概要

国産絹タンパクを用いた、化粧品を開発した。ブランド名「I2(アイツ-)」を販売する。ソープ、エッセンス、クリームをラインアップする。

地元の群馬県桐生市内で販売開始。手応えを感じる。これを足がかりに、販路を拡大していきたい。

店頭販売を次のとおり行う。2011年12月東京・東銀座の群馬県のアンテナショップ、2012年SOCOCOCO(そこここプロジェクト。中小企業庁主催で、地域特産品のテストマーケティングを行う。百貨店、エキナカに一定期間販売スペースを設ける。)

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

2000年群馬県繊維工業試験場から地場でとれる資源でものづくりをしないかと話があった。そこで、繭毛羽(まゆけば。蚕が最初にはく糸)が生糸に利用されず廃棄されている点に着目した。それをつかって、絹タンパク(セリシン、フィブリン)を抽出、繊維に定着させる技術を開発した。まず、それで下着を製造販売した。すると、アレルギー患者さんから、下着の締め付け部のかゆみが軽減した、「肌に優しい下着」との好評を得た。そこから、絹タンパクをより効果的に利用してもらいたいと思い、化粧品の開発を始めた。絹タンパクの抽出から化粧品開発まで10年の時を要した。

マーケティングについて

地場展示会に出展。それを機にメディアに取り上げられるようになった。桐生タイムズ、上毛、毎日、朝日、日経といった新聞やテレビに掲載された。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

成果のあったことは、従業員の士気向上。商品を買って頂いたお客様の前向きな反応に勇気づけられる。お客様との間に、よい循環が生まれたことに、感謝している。困難だったことは、化粧品業界の知識がなかったこと。

今後の展望・見通し

全国販売したい。通販、海外展開も視野に入れたい。

メリット・デメリット

メリットは、展示会に出展したり、行政機関と連携したりすることで、情報が色々入ってくるようになった。デメリットは、特になし。

異業種参入時のアドバイス

新しい分野に進出するとき、まったく新しい技術で挑戦するより、今まで培ってきた技術を活用するのがよいと考えている。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

共同開発、共同研究(群馬県繊維工業試験場、群馬大学医学部皮膚科、群馬大学機器分析センター)

桐生市の産官学連携施策(申請書の書き方等、時に応じた情報提供、フォローがあった)

地域資源活用新事業展開支援事業費補助

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

補助金申請の基準が厳しいのは当たり前だが、申請後の報告書が煩雑で、負担に感じる。中小企業の限られたマンパワーで、書類を仕上げるのは、至難の業だ。

会社概要

設立:1982年(昭和57年)3月

資本金:1,200万円

従業員数:15名

URL:<http://www.art-silk.jp>